

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397400041		
法人名	(株)福祉の里		
事業所名	グループホーム遊楽苑西春 (Aユニット)		
所在地	愛知県北名古屋市弥勒寺三丁目183-1		
自己評価作成日	平成24年3月6日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・平屋作りになっているため 利用者一人でも各ユニットへの行き来も自由になっており、固定した所だけで過ごすのではなく運動も兼ねてフロア内を歩くことが出来る ・苑の前は公園があり、散歩コースになっている
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成24年3月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して1年が経ち利用者と職員が共に様々な経験を積んで信頼関係を作り、利用者が安心して生活できるよう支援している。日常生活の中で利用者や職員が協力し合って、炊事や掃除など役割を持って生活している。利用者や接する時は優しく言葉使いも丁寧である。運営推進会議を活用し、家族からの要望も受け入れ少しずつ改善して、サービスの質の向上に反映している。また、市主催の「認知症の人を介護している家族の集い」を当事業所内で開催し市との関係作りにも役立っている。地域の情報は回覧板などで収集して行事に参加し交流に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に掲示され毎日の朝礼時などは、唱和し職員全員と理念を共有している	事業所の理念を管理者と職員とで作成した。理念に沿って、地域と家族とは日頃から交流をして連携が円滑にできるように支援したり、また、職員のスキルアップにも重点を置いており、積極的に研修へ参加するなど職員は理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し回覧板がまわったり次へ回したり地域とのつながりを持っている。行事への参加に努めている。地域の幼稚園との交流も深めている。	回覧板で地域情報を収集し防災訓練や盆踊りなど参加している。近くに幼稚園があり年2回交流会を開催し好評を得ている。また、町内会の掃除があり利用者と共に町の美化に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターより認知症を抱える家族の会のご家族様にGHの見学やアドバイスをこなして欲しいと依頼があり、スタッフが経験をお話させて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度定期的で開催しており市の職員より子どもとの交流について聞かれ、近くの幼稚園に依頼年三回交流会を設ける事ができた。	運営推進会議で、家族の不安や提案、市からのアドバイス、地域からの情報を聞き取っている。話し合いの中で、事業所の現状を伝え少しずつ改善できる所は改善しており、運営推進会議を有効に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の会議等に積極的に参加するようにしている。	市主催の「認知症の人を介護している家族の集い」を事業所で開催し、市との交流関係ができた。地域ケア会議に参加しており市と情報交換を行い災害対策について、事業所と地域と合同で訓練が行なえるようアドバイスをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	来年度勉強会に組み込んでスタッフ全員で理解していきたい 玄関ドアは常にST側から操作している、今後は自動ドアを手動に切り替えをしていく予定	法人内で身体拘束についての会議はあるが、話し合っていない。外出願望が強い利用者には声かけなどを工夫して対応している。玄関の鍵について日中は施錠していないが、夜間は安全のため施錠している。	元気な利用者が多く、身体拘束についての問題意識が感じられない。今後、利用者の重度化も予想されるので、身体拘束についての考え方や方針を定めていくことが望ましい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーダー会議において市の包括センターより勉強会を行なった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者がいない為今後勉強会を開いていく予定		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすく説明し、理解して頂けるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には利用者の状況報告等をし、コミュニケーションを取っている	運営推進会議や訪問時に意見を聞いている。相談窓口は設けていないが、会話のなかで意見を聞き取り、苦情相談表に記載し職員間で話し合っている。要望が多かった往診については4月から行なう予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時研修ノート等で伝えられている 年に一度管理者との懇談する機会を設けている	社長が頻繁に来ていたので問題点や要望を把握している。また、法人グループの施設担当者とは常日頃から現場について話し合っている。職員とは年1回懇談会があり悩みや要望を聞いて、改善できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はGHIに時々来られ職員と話をする機会がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修が出来多くの職員が参加できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の研修に参加し他事業所との交流を図り情報交換を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行い情報を得ている、その中で御本人さんの思いに耳を傾けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族間で困っている事を聞き取りGHで改善出来るように努めている 職員間で情報を共有している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話の中から必要としているのは何かを知り、必要があれば他のサービスの提供をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的なケアの立場になりすぎず、共に暮らしているという関係を築けるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院への通院はご家族様にお願いしている、苑での様子を伝え共に支えあっているという意識を持っていただけるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちら側から伺うことは無いが来苑された際は、ゆっくり過ごしていただける様にしている	家族協力の下、行きつけの美容院や外食に出かけている。友人などの訪問は少ないが、友人への電話も自由に掛けられるようになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った利用者同士が話す機会を作ったり、レクレーションに参加する事で良い関わり合いができる様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから働きかけはしていないが必要に応じて相談・フォローしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から一人一人の思いを聞き取り情報を共有している 困難な場合は本人本位になる様に職員間で話しあっている	日頃の会話や行動から察して、入居前からの趣味嗜好なども含めて希望や意向を汲み取り把握に努めている。本人や家族の要望は職員全員で共有し、編み物やお菓子作りなどの実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取りを行い、サービスに生かせる様にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや日々の記録等で状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでリーダーを中心として日々の報告を行なっている 1月よりカンファレンスを行い今後も定期的(3ヶ月に一度開催)に予定している	毎月の職員会議では利用者個々の現況報告や情報を共有している。それを踏まえて、介護計画は3ヶ月に一度見直している。家族の意見・要望は来訪時に伺い、看護師や職員の意見と合わせ、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や連絡帳に記録し職員で情報を共有している 特記事項に気づきの記入が書き込める様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在対象者は居ないが必要があれば社内の他のサービスと連携を取り提供出来る様にして行きたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにスーパーや喫茶店が無い為出向く事は無いが機会を作り出かける企画を作っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかっていた病院に通院していたが希望があるご家族様に対しては近くの病院やGHのかかりつけ病院を紹介している	入居前の主治医に受診する利用者も多く、家族が通院の付き添いをしている。その時には当ホーム看護師が必要事項をまとめ情報提供している。今春からはホーム協力医の往診が開始され、緊急時や重度化対応への体制が整うよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化があった際は看護師に報告し、必要があれば家族の判断を受けて受診を行なっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は一週間毎お見舞いを兼ねて様子を伺っている又担当看護師より情報を得ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	福祉の里として看取り指針を作成中、今後はご家族様に対して看取りの意思を確認して行かなければいけない	重度化や看取りについて、現状でできること、とできないことを入居時に説明し家族の理解を得ている。今後は同グループホームの看取り方針などを参考に職員の勉強会や家族との話し合いなど、体制を整え支援していく方向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル化はされているが定期的な訓練は行なわれていない スタッフは普通救命講習を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員立会いにより避難訓練を実施、今後は定期的に行なう予定 地域の防災訓練に参加	災害対策担当者を設け、地震や火災、夜間などあらゆる場面を想定した訓練を計画している。地域防災訓練にも積極的に参加し、地域との協力体制も図られている。また職員は救命講習を受講しており、ホーム内にはAEDの設置や非常食などが完備され、災害対策を強化している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段からの声掛け・ケアに対しての配慮をミーティングにて話している 社内研修にて接遇について学ぶ機会がある	日頃の記録や何気ない会話でも個人情報に注意している。利用者一人ひとりに合わせた声かけや対応ができています。また、職員指導には接遇研修を設け、実践に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から思いや希望を聞きだす様にしている 行動の前には必ず声を掛けご本人の意思確認を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、その方に合ったペースを大事にする様に心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んで頂いたり整髪して頂いている 二ヶ月に一度訪問美容室に来て頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今までの経験を生かせる様に職員と一緒に調理・盛り付け・片付け等行なっている	メニュー作りは普通の会話やスーパーの広告などから要望を聞き、調理や片付けは利用者のできることを活かして一緒に行っている。毎月の誕生日には本人の食べたい物を提供したり、手作りおやつやパンバイキングなど多彩に趣向を凝らし、楽しい食事となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量を記録に残し把握し、目の届くところにお茶を置いて自由に飲んで頂いている 以前利用して飲んでいた牛乳を入居後も配達して頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている 必要に応じて介助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め必要があれば誘導している 必要の無いおむつやパットは無くせる様に努めている	自立の人も多いが、職員は排泄記録や本人の習慣を活かした排泄パターンを把握している。夜間帯もポータブルトイレを置くことなく、利用者一人ひとりに合った声かけやトイレ誘導をしている。リハビリパンツから布パンツへ移行した利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に心掛け牛乳・ヨーグルトの摂取により自然排便が出る様にしている ラジオ体操・TV体操を行なっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には一日置きの入浴となっているが、希望される方に対しては時間の余裕があればお誘いしている	入浴は一日おきの平日午後で一对一の個浴で対応している。また、浴室内には全自動シャワーの設置があり、その日の利用者の要望や身体状況に合わせた入浴支援ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間や休む時間を設けている 夜間眠れない方には事務所にてお茶をお出し、お話等をして対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋をはさみ見られる様になっている 又、台所にも薬一覧表を貼りいつでも確認しやすい様にしてある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人できる役割を作り支援している 散歩やレクリエーション等で参加を促し気分転換を行なっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中から行きたい所の聞き取りをして散歩に出かけている 自立している方も多いため、定期的に外出できる機会を作って行きたい	現在、ホーム専用のワゴン車などがいないため、外出支援に限りはあるが、家族の協力を得て、日常的に外食や買い物に外出している。また、お花見や遠足など季節ごとの行事を企画中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には苑で管理している 小額だが持って見える方もいらっしゃるが、使うことは無い		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話を掛けて頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる様に行事の飾りを飾っている 職員が家からお花を持ってきて共用部に飾っている	居間や浴室は天井が高く、開放感がある。壁には季節感あふれる利用者の作品や生花などが飾られている。またホーム内には大型乾燥機や強酸性水器の設置があり、食器洗いや感染防止などの衛生管理も徹底されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部に2, 3人掛けのソファを二つ設置しゆっくり過ごせる様にしてある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具は無いため使い慣れた物や家具を持ち込んで頂く様をお願いしている	全室庭付き、大型ミラーとクローゼットの備え付けがある。利用者は使い慣れた布団や好みの家具などを持ち込み、居心地良く過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く車椅子対応も出来る様になっている 廊下の面には手すりが設置されている		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2397400041
事業所名	グループホーム遊楽苑 西春

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 市からアドバイスをもらい、近所の幼稚園と年2回の交流会ができた。自治会を通して地元の子ども会との交流を考えているが、保護者から感染症の不安があることから交流ができていない。市主催の「認知症の方を介護している家族の集い」を事業所内で開催し市や地域住民と交流する事ができた。	評価	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 今年度は年5回の開催であったが毎回、市の職員が参加しており、良い関係が作れている。会議を有効に活用できており、家族からの要望が多かった往診について、4月より開始できるようになった。また夜勤についても1人体制では不安な家族もあり、5月からは2人体制で対応することになり家族や職員が安心している。	評価	×
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 市とは認知症連絡協議会や地域ケア会議に参加し情報交換している。最近は災害対策についての会議が多く、地域の住民と合同で訓練を行なうようアドバイスしてもらっている。	評価	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 家族会は開催できなかったが、秋に運動会を開催し家族も参加した。今年度は計画を立て家族会を開催したいと考えている。遊楽苑通信を毎月発行して家族に送る行事の様子を伝えている。また、3ヶ月に1度は生活状況のお知らせと介護サービス計画書を送り、家族確認の後に捺印して頂いている。意見や要望については、家族の訪問時や運営推進会議にて受け入れ、苦情相談表を作成し改善できるよう取り組んでいる。	評価	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価	
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	評価	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	評価	×
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	評価	○
総合評価		評価	×

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	—	—	×			

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

